

主要Q&A

< 全社 >

Q: 2013年度第1四半期決算の概要は。

A: 当第1四半期の全社累計実績は、主に海外たばこ事業の単価上昇効果に加え、円安影響により増収増益となりました。売上収益は対前年同期+7.0%、報告ベースの調整後EBITDAは+13.6%、営業利益は+13.9%、親会社の所有者に帰属する当期利益は+16.1%となりました。全社利益指標である為替一定ベースの調整後EBITDAは+4.0%の成長となりました。2013年度通期利益目標の達成に向けて順調なスタートとなりました。

< 国内たばこ事業 >

Q: 2013年度第1四半期の概要は。

A: 販売数量は、対前年同期で+1.1%ポイントのシェア伸長を達成したことにより、総需要が2%減少している中においても、ほぼフラットの-0.2%となりました。自社たばこ製品売上収益についても、対前年同期ほぼフラットの-0.1%となっています。調整後EBITDAについては、対前年同期微減の-1.1%となりましたが、MEVIUSブランドへの投資は着実に実行しています。当第1四半期は、シェア伸長を継続させたことにより、総需要減少の中でも販売数量が安定的に推移し、通期見込みの達成に向けて順調なスタートを切っています。

Q: シェアの状況は。

A: MEVIUSの力強いパフォーマンスが全体のシェア伸長を牽引し、単月シェアは4月60.2%、5月60.6%、6月60.7%と毎月成長し、4-6月累計で60.5%のシェアを達成しました。3ヶ月累計シェアにおいて60%を達成したのは、震災以降初めてとなります。引き続き、MEVIUS、Seven Stars、Pianissimoの注力ブランドを中心に、多様化するお客様ニーズにお応えする新製品の投入、販売促進活動の展開等の施策を着実に実施し、更なる競争力強化に取り組み、シェア伸長を目指してまいります。

Q: MEVIUSのシェアは。

A: MEVIUSは、2月の名称変更以降、3月に1銘柄、5月に3銘柄の新商品を投入し、積極的なブランド周知活動、販売促進活動を実施してきた結果、MEVIUSファミリーのシェアは着実に伸長を続けており、震災前を上回る水準となってきています。これは、MEVIUSの「洗練された」「先進的な」「プレミアム感のある」といった新しいブランド価値が、幅広い世代のお客様に受け入れられ、より多くの方々にMEVIUSを選択いただいた結果であると考えています。

< 海外たばこ事業 >

Q: 2013年度第1四半期の概要は。

A: 海外たばこ事業の2013年1-3月期の調整後EBITDAは、欧州での総需要減少に加え、複数市場の流通在庫調整による数量減少影響があるものの、堅調な単価上昇、及びミックスの改善により、為替一定ベースで対前年同期+10.5%、財務報告ベースで+6.2%の成長となりました。

Q: 2013年4-6月の販売動向は。

A: GFB販売数量は、各国での総需要が減少している中でも、ロシアにおいてアップトレーディングを捉えたWinstonの好調が継続していること、コーカサスやカザフスタンを含む中央アジアにおいて成長が継続していること等により、対前年ほぼフラットの-0.3%となりました。総販売数量は、流通在庫調整の影響を大きく受けて-6.4%となった1-3月期と比べると減少幅が縮小したものの、ロシアでの総需要減少及び中・低価格帯での競争激化に加え、イタリア、スペインを中心とした欧州における景気停滞に伴う総需要減少の影響がGryson社の買収効果を上回り、対前年-3.9%となりました。足元の販売数量は、西欧での景気停滞に伴う総需要減少、ロシアを中心としたCIS地域における総需要減少及び競争激化により弱含んで推移しており、CIS+においては、対前年同期成長率が1-3月期と同レベルで推移する一方、South & West Europeにおいては減少幅が悪化しています。これらの地域における足元の総需要は、当初の想定より弱含んでおり、引き続き動向を注視してまいります。